

10. ER 当直の 2 交替制勤務導入について

日本赤十字社和歌山医療センター ○大笹 文靖、小森 優美、川嶋 宏樹、口井 信孝

【目的】

本センターでの多忙な ER 業務について、当直から 2 交替勤務への一部変更によって診療放射線技師がそれぞれどのように考えているかの意識調査を行い、それを元に今後の対応を検討する。

【方法】

全診療放射線技師 33 名を対象にアンケートを実施した。

【結果】

2 交替制勤務導入にどう思うかという問いでは、9 人が良かった、5 人が悪かった、どちらとも言えないと回答したのが 19 人。2 交替制勤務を導入したことにより日常勤務や年休取得に影響がでたかという問いでは、33 人中 19 人が影響ありと回答。全ての ER 業務を 2 交替制勤務に移行しても良いと思うかという問いでは、33 人中 9 人がはいと回答。給与に変化があったかという問いでは、15 人中 14 人が変化ありと回答。体力的に楽になったかという問いでは、15 人中 13 人が楽になったと回答。安全面はどうなったかという問いでは、15 人中 4 人が以前より安全に業務を行えるようになった、2 人が以前より安全に業務を行えなくなった、9 人が変化なしと回答。

【考察】

勤務化によって体力面で楽になったという回答が全世代で多く、給与面については残業時間と当直回数の減少により給与が減ったとの回答がどの世代でも多く見られた。安全面に対しては 40 代～50 代で睡眠が十分に取れ安全に業務に取り組めるとの回答が多くあったが、20 代～30 代の比較的体力のある世代では体力的には楽になっているが安全に対して変化を感じていない技師が多くいた。中には日勤業務の人数が減るため安全ではなくなったという回答もあり、ER 業務だけでなく日勤業務の人員についても考えていかなければならない。

完全勤務化については、20 代～30 代で給与面の心配が多くみられ全世代で代休発生による人手不足が懸念され、さらに休暇が取りづらくなるといった反対の回答が多かった。完全勤務化に移行する為には技師増員などを検討していかなければならないと思われる。